

青空にゆったりと浮かぶ熱気球、色とりどりのバルーンがふわり、ふわり然し確実にターゲットを目指している。先日、十勝管内上士幌町航空公園及びその周辺で開催された「第 29 回北海道バルーンフェスティバル」（8 月 9 日から 11 日開催）に招待され、約 1 時間の空中散歩を楽しんだ。



(上空 500ft 付近から、会場方向を望む)

熱気球はフランスで 200 年以上前に始められたもので、ライト兄弟に先立つこと 150 年である。日本では、北海道の留寿都で、1969 年初飛行、上士幌町では 1974 年に第一回熱気球フェスを参加機数 5 機で開催し、爾来規模を逐次に拡大して、今年で 29 回目になる。麦の取り入れの終わったこの時期の「緑の大地」と冬の「白銀の大地」を思う存分に堪能させてくれている。第五特科連隊がこのフェスティバルを支援している。

さて、やや肌寒く、こそば降る霧雨の中、飛行が危ぶまれたが、私共の為に無理をして飛行を決心、9 時過ぎに準備開始、パイロットは、熊本 B. C. JAPPLE の名パイロット龍野幸敏氏である。氏は、今回の大会のオフィシャルバルーンパイロットである。籐製のゴンドラの中にはプロパンのボンベが 4 本、球皮は 2200 m<sup>3</sup>、直径は 15 m 位か。スタッフが協力し合って球皮を展帳、道新号と名付けられたバルーンに風車でまず空気が、ある程度膨張したら、ゴォーという音と共にバーナーが始動、熱気を腹一杯食べた気球はふわりと空中に浮かぶ。龍野氏と家内と庶務幹部そして小生を乗せたバルーンは地上を離れて空中高く昇っていく。ショックも揺れもない。いつの間にか 100 メートルほど上昇したろうか。思ったよりも上昇速度は速い。他に数機のバルーンが空中にあって一路会場のターゲットを目指す(?)。フライインと言う競技方式で、バルーンの操作技術を競うらしい。定められたターゲットにマーカーを投下し、近さを競うものだ。

熱気球というのは、操縦装置は全くない。バーナーで空気を熱して上昇するか或いは空気の冷えるのを待って降下するだけだ。従って、一路会場を目指すという訳には行かないのである。

正に風まかせだ。とばかりは言っておれない。風の向きや強さは、高さや周囲の植生によっても違う。時にはある高さのところは逆向きの風が吹くこともあるという。これ等の風邪の微妙な動きを察してある時は気球を上昇させ、ある時はそれを下げて所定の地点に誘導してゆくのである。風の道が見えなくては一人前とは言えぬ。残念なるかな、青空の無きを恨む。然し、こんなにゆったりと空中を散歩出来る、夢を見ているようだ。龍野氏は上昇と下降を繰り返しつつ巧み

に操って会場方向に導く。見下ろすとスタッフの人達がバルーンを追いかけてくる。風の向きが良くないので、予期しない地点に着達することもあり得るので、それに備えているのだ。下界からは、子供たちが、そして民家からお婆さん達が窓から顔を出して手を振っている。バルーンは、小学校の体育館の屋根の上1メートル位を滑っていく。素晴らしい技術だ。龍野氏は、着地しても良い地点を地上のスタッフと連絡を取りながら確認した後に、ついに決定。『あの道路に降りましょう』という。バーナーを調整しつつ、ビート畑を超えて、見事に道路上に着地。スタッフが駆け寄り、ゴンドラを押さえる。最高級の腕前だ。上士幌町の役場の方が『あの方は、最高ですよ。主催者に迷惑をかけないように道路等に降りて頂けるのです。』とベタ褒めだ。小麦の取り入れは終わっているとはいえ、畑には色々な作物あり、民家や電線もあり、防風林もある。風任せですと言っている訳には行かないのである。また、牛や馬をバーナーの音で驚かさず訳にもいかない、細かい、配慮が必要なのである。このような配慮が為されているから、地域の人々も好意的なのだろう。それがこのようなイベントを永続させる秘訣だ。

聞くとところによれば、熱気球は3~400万はするのだそうだ。中には自作の気球もあるという。18歳にならないとパイロットにはなれないようだ。実技もあるが矢張り気象学の勉強が重要だとの事だ。風邪を読み切る能力が確かに求められる。雨が天敵という訳ではないが、好ましくはないようだ。通常だと、多数のバルーンが空中を遊弋しているので、衝突する危険性も無しとはしない。下のバルーンからは上空は見えないので、上空にあるバルーンが衝突を回避する義務があるのである。球皮同士の衝突はあまり問題はないが、ゴンドラが球皮に衝突して破れると大変だ。一気に地上に激突という大参事になりかねない。

熱気球の大会としては、佐賀平野で実施されるのが規模が大きいようだが、上士幌町は町で開催しており、且つ30年近い歴史を持っている。エントリーされた40機のバルーンを見ても実に多彩だ。中でも目を引いたのが、上士幌高校熱気球部の参加だ。高校生のクラブは珍しいのでは。大学生のチームが10指余り。

近年、スカイスportsが盛んになりつつある。パラグライダー、ハングライダー、グライダー、スカイダイビング、パラセーリング、熱気球等々。五師団管内でもスカイスportsを通じて町おこしを期そうとしている自治体があるが、さしずめ上士幌町を以て嚆矢とするのだろう。